

平成26年度 県立中央高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の進学校として、地域住民や中学校から信頼される学校（きめ細かな学習指導・進路指導を行い、生徒の希望進路の実現を図る。） ・自律ある行動ができる生徒の育成に努め、明るい学校（生活の基礎である基本的な生活習慣を身に付けさせる。） ・心のふれあいを大切にできる学校（魅力ある特別活動と部活動の推進を図る。） 				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況		
○成果 ・進路実績： 国立大学2年連続10名合格 茨城高専編入学1名 私立大学合格76名 公務員試験6名合格 就職内定100%達成 ・部活動実績（関東大会出場以上） ・茨城県高校陸上競技大会 男子400m 3位 ・第19回流れのふしぎ展 ウィンドカーコンテスト 障害物部門高校・一般の部特別賞 ・アイデア賞 レーシング部門優勝 ・第17回スターリングテクノロジー 3Vターラクラス3位 5位 ○課題 ・学習意欲の高い生徒に対する授業内容の充実と指導法の改善 ・キャリア教育の推進と家庭学習の定着 ・マナーやルールを主体的に順守できる精神の向上を図る	1 授業内容の充実と評価の工夫	(1) わかる授業を展開するための指導の工夫 (2) 公開研究授業による指導技術の向上 (3) シラバスの有効活用 (4) 家庭学習の習慣化	B			
	2 進路指導における中央メソッドの具体的運用と確立(国公立大合格20名, 就職内定100%)	(1) 課外指導の拡充と学力の向上 (2) キャリア教育の充実 (3) 進路ガイダンスの内容の充実 (4) 面接指導の充実	B			
	3 HR活動や学校行事への自主的な参加促進並びに部活動の充実と結果の広報	(1) 企画・運営を生徒中心にするなど、生徒の自主性を尊重した学校行事の運営 (2) 部活動の充実・強化	B			
	4 生徒指導における全職員による自律を促す段階的指導の充実	(1) 頭髪・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的な生活習慣の確立・定着を図る。 (2) 毎日の授業への心構えと安全・安心な生活環境の充実を図る。 (3) 生徒理解を深めるために教育相談等の有効活用を図る。 (4) いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	A			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題		
教	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上 ・読書指導の推進 ・評価の工夫と改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や単元ごとの小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。 ・週末課題の設定など家庭学習の定着を図るための工夫をする。 ・日本漢字能力検定に積極的に参加し、多くの合格者を出すように努める。 ・長期休業中の課題などの読書指導により多くの本に親しませる。 ・シラバスを工夫し、適正で実効力のある評価をする。 	c c b b	C B B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力定着のための小テストや週末課題の設定などに取り組んだ。しかし、基礎学力の向上には継続的な取り組みが必要となる。
	地歴・公民	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着および応用的な学力の育成 ・評価の工夫と改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の定着を図るため、ノートや授業で使用したプリントの提出を徹底させる。 ・大学進学を目標としている生徒を中心に、センター試験や私大入試で高得点を狙うための課外授業を実施する。 ・観点別評価の工夫と研究 	a a b	A B	<ul style="list-style-type: none"> ノート・課題の提出を徹底させた。センター試験で高得点を得るための指導を工夫したい。
	数	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた指導計画の改善充実 ・基礎学力の向上 ・家庭学習時間の確保 ・評価の工夫と改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態・能力に応じた授業を展開する。 ・生徒の進路希望に応じて積極的に課外授業を展開する。 ・定期テストの不振者に補講を行う。 ・確認テストや発問を多くし、基礎学力の定着を図る。 ・宿題や週末課題を出して家庭学習の状況や理解度を確認する。 ・長期休業中の課題を通して、安定した学力を維持する。 ・定期試験、宿題、長期休業課題、授業態度等を適切に判断して評価を行う。 	b a b b b a	B B B B A	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力定着のための小テストや週末課題の設定などに取り組んだ。ある程度、基礎学力の向上に成果が見られた。今後とも、基礎学力に加え応用力をつけさせたい。

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		達成状況及び次年度(学期)への主な課題	
教科	理 科	・多角的な授業の展開	・授業での生徒実験、演示実験の機会を増やす。	a	B	・全体に実験回数を多く授業に取り入れられた。 ・地学教材の増加、化学の薬品整備を行いたい。
		・進学希望者への対応	・ICTを活用して授業を行う。	b		
		・評価の工夫と改善	・校外授業や放課後等の課外実験など、多彩な学習形態を試みる。	c		
	保 健 体 育	・運動の楽しさの体験	・博物館からの資料など、多様な教材を利用して授業を行う。	c	B	・運動へ積極的に取り組む生徒が増えてきた。体力テストの結果も向上している。 ・部活動等をしていない生徒の運動への関心を高めていきたい。
		・生涯スポーツへの継続	・学年主体の課外他に、個別で生徒対応の指導を行う。	a		
		・運動をとおした体力の向上	・生徒の進路希望や興味関心に応じた科目選択を用意し、少人数授業を実施する。	a		
		・評価方法の工夫	・観点別評価を生かした授業評価法の改善を検討する。	b		
		・自己の体力の向上	・選択制の授業形態の充実により、様々な種目選択を可能にし積極的な活動を促進する。	b		
		・健康と安全についての総合的理解、健康の保持増進	・自己や周囲の健康、安全に配慮し、技能や体力の向上に努める。	b		
		・健康診断や身体測定の結果等から自分の健康状態を把握させ、健康処方を作成させる。	・体ほぐし、体作りの運動を取り入れ、筋力や持久力、柔軟性といった基礎体力を高める授業内容を実施する。	b		
芸 術	・(音楽) 創造的で柔軟な発想力及び健全な芸術的判断力の養成	・観点別評価を導入し、意欲、興味関心、技能などの面から評価を行う。	b	B	・一人一人が目標や課題が明確になるように評価表を用いた。 ・意欲・関心や技術に差があるが、苦手意識をもつ生徒の関心を高めていきたい。 ・課題に対し生徒が主体的に取り組み、豊かな発想力を見出すことができた。他の生徒作品にも関心を向け、互いに鑑賞し合うことで意識の向上を図った。元から美術が得意な生徒に対する効果的な指導の工夫が必要である。	
	・(美術) 芸術的な能力の伸長及び芸術を愛する心情や豊かな情操の育成	・体力テストの結果により、自己の体力の特性を理解し、自ら改善の運動処方に取り組む姿勢を育てる。	b			
	・健康と安全についての総合的理解、健康の保持増進	・視聴覚教材を有効に利用し、具体的な情報を得ながら、興味・関心を持たせるよう工夫する。	c			
外 国 語	・基礎学力の向上	・健康診断や身体測定の結果等から自分の健康状態を把握させ、健康処方を作成させる。	c	B	・1年生全員が英検を受検し、3級に65名、準2級に2名が合格した。これにより、1学年の3級保有者は83名となった。 ・Can-doリストの作成により、本校の英語学習の到達目標を明確にし、継続的な指導を実践することが課題である。	
	・家庭学習習慣の定着	・コーラスや楽器による豊かな表現などを学び、音楽的な感性を磨く。	b			
	・実践的英語力の向上	・小アンサンブルによる活動に関心を持たせ、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解させ、取り組ませる。	b			
	・新学習指導要領に基づく授業の実践	・絵画やデザイン等の創造活動を通して、鑑賞の能力を伸ばすとともに芸術を愛する心情を養う。	c			
家 庭	・生活創造力の育成	・平面・立体・混合した課題から、多面的な創作技術と感性の伸長を図る。	a	B	・情報モラルやセキュリティへの理解と対処法を身に付けることができた。 ・生徒発表の充実が課題である。	
	・基礎技術と実践的態度の育成	・レッスン終了時に課題や小テスト等を実施し、学習理解の状態を把握して、不十分な生徒に対しては、個別指導を実施する。またノート提出やプリント学習を通して、基本事項の定着を図る。	b			
	・評価方法の改善	・学習習慣の定着のために家庭学習用の課題を互え、定期的に点検し、評価に加える。	c			
情 報	・新学習指導要領に基づく授業の実践	・1年生は全員英検を受験する。合格対策として事前課外、二次受験者課外を実施する。	a	A		
	・評価の工夫と改善	・2、3年生についても、英検の受検を奨励し、合格のための支援を実施する。	a			
情 報	・生活創造力の育成	・生徒の実態に合わせた指導法を考え実践し、授業内容を検討し改善に努める。	b	B		
	・基礎技術と実践的態度の育成	・定期考査・実力考査・課題・授業態度や問題演習への取り組みなどを総合的に判断し、評価する。1・2年生については、観点別評価を取り入れて評価を行う。	b			
情 報	・生活創造力の育成	・グループワークや意見発表などを多く取り入れ、生活に対する自分の考えを確立するよう促す。	b	B		
	・基礎技術と実践的態度の育成	・実習・実験を効果的に活用する。また、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通してより主体的な実践活動に取り組めるようにする。	b			
情 報	・生活創造力の育成	・実習・実験時の活動の評価について評価表などを活用する。観点別評価も取り入れ評価する。	b	B		
	・基礎技術と実践的態度の育成	・観点別評価を導入する。	b			
情 報	・生活創造力の育成	・プレゼンテーション能力の向上をはかるため、生徒発表会等を実施する。	c	C		
	・基礎技術と実践的態度の育成	・Webページの具体的作成実習などにより、情報発信能力の向上とともに、情報通信にかかわる諸法規と情報セキュリティへの理解や対処法を身に付ける。	b			

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題	
教務	・授業時間の確保	・チャイム始業・チャイム終業の徹底	b	B	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム始業及び終業の徹底がほぼ図られた。 ・各学年と教科の連携により学力の向上を図られたが、通常の課外以外での上位者の個別指導や成績不振者の指導など、今後検討が必要な課題がある。 ・観点別評価については内規に取りまとめ、各教科のシラバスを活用して評価することとなった。今後は適切に評価が行われるよう配慮したい。 ・韓国からの訪問団と交流を図ることができた。また、今年度は韓国への海外研修を実施した。 ・学校への広報活動では頻繁にHPを更新し、最新の情報を提供することができた。 ・年間行事計画に従い、各行事の準備・運営を滞りなく実施することができた。
	・わかる授業の展開	・公開授業等の相互研修の機会を増やし、教科指導法の工夫と研究を行い、授業の質的向上を図る。	b	B	
	・学力の向上をめざした指導の工夫	・生徒による授業評価を実施し、指導力向上の参考とする。	b	B	
	・家庭学習の習慣化	・シラバスを効果的に活用する。	a	B	
	・評価方法の改善	・成績不振者の指導と成績中位・上位者への学習意欲のなお一層の喚起を図るため、教科・学年・校務の連携を図り、学力の向上に努める。	b	B	
	・特色ある教育活動の充実	・生徒の家庭学習時間を確保するために指導法を工夫し、課題(宿題)等を計画的に与えて家庭学習の習慣化を促す。	b	B	
	・新教育課程の実践	・各教科において、観点別学習状況評価を円滑に導入し、適切な実施に向けて成績に係る内規を再検討する。	a	A	
	・教育活動の広報と生徒募集の推進	・海外と連携学校との交流、中国上海・韓国での語学研修、スポーツ科学コースにおける大学との連携など、特色ある教育活動を充実させる。	a	A	
	・年間行事計画の充実	・新学習指導要領の実施に伴い、適切な実施と生徒へのきめ細かな対応に配慮する。	a	A	
	・魅力ある学校行事を取り入れ、学校を活性化させる。	・広報誌やホームページ等を活用し、本校の教育活動の広報にさらに努める。	a	A	
・効果的な生徒がための目標意識を持つ学校生活に取り組めるよう、年間行事の充実並びに円滑な実施を図る。	・効果的な生徒がための目標意識を持つ学校生活に取り組めるよう、年間行事の充実並びに円滑な実施を図る。	a	A		
・魅力ある学校行事を取り入れ、学校を活性化させる。	・魅力ある学校行事を取り入れ、学校を活性化させる。	b	A		
進路指導	・課外指導等の充実	・課外授業を充実し、より高い進路実現を目指す。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立20名という目標を掲げたが12月までの推薦終了時点で4名という厳しい数字となった。大学推薦入試の傾向の変化をしっかりと分析・検証して次年度に生かしたい。 ・中央メソッドについて進捗状況などを話し合う機会はとて有効であった。変化していく受験環境には対し学年間の情報交換は重要であった。 ・課外の取り組みについては3年と下級生との温度差がある。早めの受験学習は毎年の課題である。 ・すべて個別面談を多用することで有効に進路指導を行いたい。 	
	・インターンシップの充実と進路意識の高揚	・週末課題の提示と確認テストを実施し、学習内容の定着を図る。	b		
	・進路指導内容の充実	・学習室を整備し、落ち着いた雰囲気なかで学習活動ができるようにする。	b		
	・中央メソッドの充実と発展	・放課後の平常課外や土曜課外に積極的に参加させる。	b		
	・面談指導の充実	・インターンシップを通して就職に対する意識の高揚を図る。	a		
	・家庭、企業、大学との連携	・総合的学習の時間等を有効利用する。	a		
	・進路指導内容の充実	・校外模試を計画的に実施し、その結果を次の指導に活かす。	a		
・中央メソッドの充実と発展	・大学説明会や大学見学会へ積極的に参加させ、上級学校の理解を深めさせる。	a			
・面談指導の充実	・進路ニュースを充実させ、精選した進路情報を提供する。	a			
・家庭、企業、大学との連携	・中央メソッドを具体的に各学年で運用し、3カ年にわたる具体的な進路計画を策定する。	a			
・面談指導の充実	・機会ある毎に生徒との個別面談をできるだけ多く実施する。	c			
・家庭、企業、大学との連携	・保護者面談等の機会に充実した進路情報を提供する。	b			
・面談指導の充実	・大学進学率の向上を図るため、大学見学会を実施する。	a			
・家庭、企業、大学との連携	・出前授業、卒業生による講演会、進路ガイダンス等を実施し進路情報の提供に努める。	a			
・家庭、企業、大学との連携	・企業訪問や職場見学会を実施する。	a			

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度課題(学期)への主な課題
生徒指導	・基本的生活習慣の確立	・定期・不定期の指導・見守りを実施し、中央高校生と好ましい関係の構築を図る。 ・校内・校外での安全・安心な環境の確保に努める。特に各学年の要望を聞き、必要に応じて対応を図る。 ・各学年の生活習慣の調査を実施し、指導の方向性を定める。 ・各学年の生活習慣の調査を実施し、指導の方向性を定める。	a a a	A
	・校則やマナー、モラルの遵守・実践	・毎朝、校則やマナー、モラルの遵守・実践の指導を行う。 ・各学年の生活習慣の調査を実施し、指導の方向性を定める。 ・各学年の生活習慣の調査を実施し、指導の方向性を定める。	a a a	
	・関係の解消	・各学年の生活習慣の調査を実施し、指導の方向性を定める。 ・各学年の生活習慣の調査を実施し、指導の方向性を定める。	a b a	
保健指導	・完全健康診断の実施	・各学年の健康診断の実施。 ・各学年の健康診断の実施。	a a a	B
	・生活習慣の改善	・各学年の生活習慣の改善。 ・各学年の生活習慣の改善。	a a a	
	・各種活動の活性化	・各学年の各種活動の活性化。 ・各学年の各種活動の活性化。	a b a	
特別活動	・各種行事への保護者の参加率の向上	・各学年の各種行事への保護者の参加率の向上。 ・各学年の各種行事への保護者の参加率の向上。	a a	A
	・広報活動の活性化	・各学年の広報活動の活性化。 ・各学年の広報活動の活性化。	a a	
図書	・LHR、授業等での活用の推進に向けた図書室の充実	・各学年のLHR、授業等での活用の推進に向けた図書室の充実。 ・各学年のLHR、授業等での活用の推進に向けた図書室の充実。	c b	B
	・生徒の自主的な利用を促進するための広報活動等の推進	・各学年の生徒の自主的な利用を促進するための広報活動等の推進。 ・各学年の生徒の自主的な利用を促進するための広報活動等の推進。	a b	
渉外	・各種行事への保護者の参加率の向上	・各学年の各種行事への保護者の参加率の向上。 ・各学年の各種行事への保護者の参加率の向上。	a a	A
	・広報活動の活性化	・各学年の広報活動の活性化。 ・各学年の広報活動の活性化。	a a	
エネルギー教育	・環境とエネルギーに関する学習機会の増加	・各学年の環境とエネルギーに関する学習機会の増加。 ・各学年の環境とエネルギーに関する学習機会の増加。	a b	B
	・生徒の研究活動の支援	・各学年の生徒の研究活動の支援。 ・各学年の生徒の研究活動の支援。	c b	

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題	
1 学年	・ 基本的生活習慣の確立	・ 中央高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。 ・ 面談を重視し、生徒の長所や個性を掌握し悩みや問題を早期に解決するよう努める。 ・ 段階的指導を有効に展開し、落ち着いた生活環境づくりに努める。 ・ 情報教育、情報モラル教育を徹底し、情報社会に的確に判断できるような指導を徹底する。	b a b b	B B A C B	・ 段階的指導の有効な活用によって、生徒達は落ち着いた学校生活を送る事ができており、これを継続させたい。 ・ 情報モラルについての指導は今後も継続していく必要がある。 ・ 学習面では、基礎学力の向上をさらに図っていく必要がある。 ・ 特進クラスにおいては、校外模試でも得点をとれる学力づくりが求められる。家庭学習の定着は必須である。 ・ すべての活動において、自主的・自発的な活動行動ができる生徒の育成が必要である。
	・ 基礎学力の向上	・ わかる授業、知的好奇心を喚起する授業を展開し、大学入試を保障する学力づくりに努める。 ・ 英国と小論文対策の朝ドリルを実施し基礎学力の定着を図る。 ・ 英語の基礎力養成を図る。10月の英検(第2回)3級・準2級合格率30%以上を目指す。 ・ 講演・講話の機会に記録・感想を書かせ、記述力の向上を図る。 ・ 平日の放課後(週3回)、土曜日、長期休業日等に課外指導を実施する。 ・ 成績不振者への指導を徹底する。 ・ 校外模試の数値目標 校外模試の各科目平均偏差値45以上、平均偏差値50以上を10名、英数国各偏差値50以上20名を目指す。	b b c b a b		
	・ 進路意識の高揚	・ 進路意識を高めるために進路講演会や出前授業を開催する。 ・ キャリア教育の一環としてオープンキャンパス参加の促進と「職業インタビュー」を実施する。	a a		
	・ 特別活動への積極的な参加	・ 積極的に部活動への参加を促す。	c		
	・ 保護者(家庭)との連携	・ 保護者面談を充実させ保護者との意思疎通を図るとともに、情報の提供に努める。	b		
2 学年	・ 基本的生活習慣の確立	・ 中央高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。 ・ 面談を重視し、生徒の長所や個性を掌握し悩みや問題を早期に解決するよう努める。	c c	C C B B A B	・ 多くの生徒は基本的生活習慣を確立しているが、継続的な指導が必要である。 ・ 各教科で小テストや週末課題、追試験などの取り組みをしているが家庭学習時間の増加には至っていない。継続的な取り組みが必要である。 ・ 平常・土曜課外を含め学力向上の取り組みを継続して進めているが、成績上位者の伸長のための工夫が必要である。 ・ 大学進学者保護者説明会は保護者を巻き込んだ指導として効果は大きかった。 ・ 修学旅行は十分にその目的を達成することができた。 ・ HPや緊急情報メールにより、保護者への情報提供ができた。
	・ 基礎学力の向上	・ 英語の基礎力養成を図る。実用英語検定の合格者数を指標とし、3級30名以上、準2級20名以上の合格を目指す。 ・ 家庭学習時間の全体平均1時間以上、特進クラス平均2時間以上を目標とし、実現するための課題や学習計画指導の工夫をする。 ・ 進研模試の各科平均偏差値を国語48以上、理系・文系数学50以上、英語44以上、地歴公民理科50以上を目標とする。個人国数英総合偏差値(全国)50以上を、自然科学系5名以上、人文国際系8名以上を目標とする。 ・ 小論文指導の充実を図る。	c c c		
	・ 進路指導の充実	・ 従来の進路講演会や出前授業などの進路行事に加え、進路別LHRや総合学習の時間を有効に活用することで進路意識を高める。 ・ 生徒各自の進路目標を確定させ個別に努力目標を設定させる。 ・ オープンキャンパスや公開授業等へ積極的に参加させる。	b c b		
	・ 特別活動への積極的な参加	・ 中核学年としての役割を自覚させ部活動や行事等に積極的に参加させる。	b		
	・ 充実した修学旅行の実施	・ 総合学習やLHRを利用したガイダンスを行うことで、充実した事前・事後学習を実施する。	a		
	・ 保護者(家庭)との連携	・ 保護者面談を充実させ保護者との意思疎通を図るとともに、情報メールなどを有効に利用して情報の提供に努める。	b		

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題
3 学年	・キャリア教育の充実	・進路別LHRを積極的に活用し、生徒それぞれの進路希望に応じた指導を実践する。 ・進路指導部との連携を強化し生徒全員の進路実現を図る。 ① 国公立大学20名以上、日東駒専クラス・難関私大に20名以上合格。 常磐大学・茨城キリスト教大学等県内私立大学の一般試験合格者2桁をめざす。 ② 間違いのない専門学校を選択・進学を導く。医療看護系専門学校合格100%をめざす。 ③ 就職内定100%をめざす。公務員志望者合格100%をめざす	a	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒全員の進路実現については、目標達成に向けてスタッフ一丸で努力できた。 ・大学進学者保護者説明会は一定の成果有り。1学年から実施し進学の意義を伝えたい。 ・公募推薦の小論文対策強化 ・公募推薦志望者には一定の基準を設ける必要がある。 ・物量作戦では限界がある。 ・医療看護系の面接指導は早期実施が必要である。 ・進路別HRは効果大。合格後の指導が課題。 ・オール中央の面接指導は成果大。継続を。 ・家庭学習時間は、メンタルをどう育てるかが課題。 ・生活指導は、成長の著しい1年であった。
		c		
	・自己実現のための学力向上	・合格する面接指導、小論文指導の実践	b	
		・家庭学習時間の確保(数値目標;進学・スポーツ科学コースで平均1時間以上、特進で平均4時間以上)	c	
		・平常課外や土曜課外、夏期・冬期休業中の課外への積極的な参加を促すとともに、最後まで受講する指導を徹底する。部活動終了後の課外参加率90%以上を目標とする。	b	
		・各種模擬テストを有効に活用する。受験後の解説や学力到達度の目標設定に注力する。	b	
		・中央学習室、ブライトホール、図書室、地学室等の自習室利用を促進する。	b	
	・生活指導の充実 ・特別活動の充実	・社会で通用する常識や基本的生活習慣の完成をめざす。(挨拶・敬語)	b	
		・文化祭に積極的に参加し充実感・達成感を味わうとともに毎年一般公開で開催できる内容を模索させる。	b	
		・大学進学希望保護者説明会の継続と充実	b	
・保護者との連携	・HPや緊急情報メールを有効に利用して3学年の教育活動を広く保護者や地域住民に知らせる。	b		

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない